

(16) みずな

病害虫名	防除法	防除のポイント	薬 剤 防 除		
			防除時期	RACコード	薬 剤
1 黒腐病 <i>Xanthomonas campestris</i> <i>pv. campestris</i>		1.連作すると多発するので、アブラナ科以外の作物と最低2年輪作する。 2.発病株を除去し、収穫後の残茎葉は集め	初発から 3～4回	M1	コ サ イ ド 3 0 0 0
2 軟腐病 <i>Pectobacterium carotovorum</i>		1.抵抗性品種を用いる。 2.4～5年輪作にし、イネ科、マメ科の作物を作る。 3.早播きのもは防虫ネットで被覆する。 4.軟腐病菌は害虫の加害痕など、傷口から感染するので、害虫の防除を行う。	本葉9～10 枚のころから 2～3回	M1	コ サ イ ド 3 0 0 0
3 白さび病 <i>Albugo macrospora</i>		1.排水を良好にし、過湿を避ける。 2.密植したり、過繁茂にならないようにする。 3.窒素過多にしない。 4.マルチ栽培を行う。 5.被害茎葉は集めて圃場外に持ち出し、処分する。 6.アブラナ科野菜の連作を避ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.アミスター20フロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は葉害のおそれがあるので使用しない。	播種時または定植前 (全面土壌混和) 発病初期	11・4 11 21 21	(混)ユニフォーム粒剤 アミスター20フロアブル ランマンフロアブル ライメイフロアブル
4 炭疽病		1.ポリマルチや敷わらを行う。 2.排水をよくする。 3.窒素肥料の多用を避ける。 4.被害果や被害葉は除去し、処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.ベンレート水和剤は白斑病にも登録がある。	発病初期	1	ベンレート水和剤
5 立枯病 <i>Pythium</i> sp.		1.圃場を水田にするなど、湛水処理をする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.土壌消毒方法はⅢ-14.土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒 播 種 時	— — M5	ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤 ダコニール1000
6 アブラムシ類		1.周辺雑草を防除する。 2.育苗床では防虫ネット(1mm目合以下)で被覆する。 3.周囲にシルバーテープをはる。 4.シルバーマルチをする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.アディオソラ乳剤はダイコンハムシ、ヤサイゾウムシにも登録がある。	播 種 時 発 生 初 期	4A 4A 4A 1B 3A 4A 4A 4A 4A 4A 29	モスピラン粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤 ジェイエース水溶剤 アディオソラ乳剤 アディオソラ乳剤 アドマイヤーフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 ウララD F
7 コナガ		1.育苗床では防虫ネット(2mm目合以下)で被覆する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.カスケード乳剤はアオムシにも登録がある。 2.アフーム乳剤はアオムシ、アザミウマ類、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、ハモグリバエ類にも登録がある。 3.プレオフロアブルは浸透移行性に乏しいので、かけムラのないように散布する。	発 生 初 期 (若齢幼虫期)	5 6 6 13 15 22B 28 UN	スピノエース顆粒水和剤 アフーム乳剤 アニキ乳剤 コテツフロアブル カスケード乳剤 アクセルフロアブル プレバソソフロアブル5 プレオフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

みずな

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
8 キスジノミハムシ	1. 育苗床では防虫ネット（0.8mm目合以下）で被覆する。 2. アブラナ科野菜の連作を避ける。	播 種 前	3A	フ オ ー ス 粒 剤
		播 種 時	4A 4A	ア ル バ リ ン 粒 剤 ス タ ー ク ル 粒 剤
		発 生 初 期	4A 6 22B	モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 ア ニ キ 乳 剤 ア ク セ ル フ ロ ア ブ ル
9 ネキリムシ類	1. 被害株周辺土中の幼虫が潜む穴を見つけ、捕殺する。 2. 作付け前の圃場の除草処理を徹底する。	播 種 前	3A	フ オ ー ス 粒 剤